

8. 5 まつるアンケート抄-Q. 私のお祭り体験?-

Facebook「とある民俗学講師の補足メモ」

- ・まつりの前近代：周期化・集団化・定式化した呪術としてのまつり、義務というより権利としてのまつり
- ・まつりの近代／現在：ハレ（非日常）／ケ（日常）区分の曖昧化、コミュニティとまつりの変容（町おこし、観光化…）
- ・まつりをめぐる多様な主体：男と女、大人と子供、家格の高下、ウチとソト…、その「働きかけ」に応じた意味と機能
- ・「おまつりを続けていること」はそれを支えるコミュニティのパロメーター

【七日市】岐阜県恵那市では、毎年1月7日、市神神社の神様をまつる七日市が開催されます。七草がゆが無料で配布され、私は毎年そこで食べています。この祭りは、七草がゆと一体化することで存続しているといえます。

【今宮祭】2024年5月、今宮神社の祭で神輿を曳きました。私は大阪に住んでいるので全く地縁はありませんでしたが、大学で祭礼バイトを募集していたので応募して参加しました。当日は東千本町の住宅街に集合。神輿が道路に既に置いてあり、地域の子供からお年寄りまで、住民総出で祭を行っている感じでした。まず東千本町から今宮神社まで神輿を回送し、その後、今宮神社から地域全体を回って、最終的に集合場所に戻ってきました。休憩中は地域の人々から飲み物やお菓子を貰いました。ちなみに給料は8000円（他に交通費500円）。

【ぴったり観音】静岡県富士市の宮島新田では、毎年6月、「ぴったり観音」と呼ばれる区の守り神である馬頭観音をお祭りします。平成5年からは、ぴったり観音を守護神とした宮島新田観音太鼓が演奏されるようになりました。お神輿を地元の小学生みんなでかつぎ、観音太鼓を聞きながら町内を回りました。また、近くの公園では町内会ごとに屋台が出されていました。当時はただ楽しむだけでしたが、一地域の小さなお祭りにも由来があったのだと知り、興味がわきました。

【戸畑祇園】福岡県北九州市戸畑区にはユネスコの無形文化遺産にも選ばれている「戸畑祇園」があります。戸畑区が4つの地区に分かれ、それぞれが山笠を担いで区内を歩きます。大人が担ぐ山笠と中学生が担ぐ山笠があり、自分は中学生のとき参加しました。7月下旬で、多くの人が密集して担ぎ上げるので、とにかく暑かったのを覚えています。中3の年がコロナのために中止になってしまったのがとても心残りです。

【ねぶた】私の地元青森市には、8月1～7日、青森ねぶた祭りという大きな祭りがあり、私は物心つかない頃から毎年参加しています。ねぶたは、大型、中小ねぶた、囃子(大太鼓、笛、手振り鉦)、跳ね人で構成されています。大型ねぶたは、ねぶた師の方々が、一年かけて作るので迫力満点です。跳ね人は「ラッセラーラッセラーラッセラッセラッ」という掛け声をしながらひたすら路上を跳ねて進みます。さらに、「化け人」といって、一部の人が仮装をしたり、子供たちが跳ね人の衣装についている鈴をねだったり、という文化もあります。ねぶたはとても楽しく、唯一外で大声をだして騒げる機会なので、一年のストレスを発散できます。ねぶたは、東北の農民事「眠り流し」に由来し、農作業の妨げとなる眠気を追い払うことが目的だと聞いたことがあります(諸説あり)。

【吉原の万灯笼】京大銭湯サークルの夏合宿で舞鶴市宇東吉原にある「日の出湯」さんにお世話になりました。その期間、毎年8月16日に開催される「吉原の万灯笼」という伝統的な火祭りにサークルメンバーも準備を含め参加させていただきました。この祭りは豊漁や海難防止を願うもので、まず愛宕山にある愛宕神社(京都市右京区嵯峨愛宕町)で祈祷を受けて神火を授かり、その後、和太鼓を乗せた軽トラを先頭に松明を持った走者が伊佐津川に向かって走ります。そして川沿いに到着したら、予め作っておいた竹のはしごを持って川に入り、それに火をつけて川の中に突き刺し、はしごを回し

ながら走者がそれを登るというものです。事前準備の中で、祭りにおける地元の人の役割や繋がり、そして地元のひとがどれだけ自分たちの祭りの誇りを持っているかを感じました。

【地蔵盆】3歳の時、奈良県大和郡山市で地蔵盆に参加した。母の実家のある北垣内(きたがいと)地区では、毎年9月1日に地蔵盆を行っている。子供たちが自分の名前が入った提灯を持ち寄り、皆で輪になって大きな数珠を持ってまわしていった(数珠繰り、というそうだ)。数珠には一つだけ大きな珠があり、それが自分に回ってきた際に願い事をする決まりであるらしい。その後、近所のお坊さんによる説法があり、白米と赤飯の紅白のおにぎりとお菓子がふるまわれた。

【秋祭り】私は小学生4年生の時に地元兵庫県加古川市加古川町北在家の秋祭りに参加した。この祭りでは大人と子供が法被を着てそれぞれの神輿を担いで町内隅々を歩いた後に町の氏神である浜宮天神社まで運び最後に神に祈る祭りであった。神輿を運ぶ時の掛け声は「ワッショイ」ではなく「ヨーイヤサー」であり加えて秋祭りながら五穀豊穡を祈願する掛け声もあった。またこの年は10年に一度の神馬が回ってきた年であり大人神輿が白馬を引き連れた。しかし田畑から住宅地凶化したこの土地では地域住民も土着の人が減り外からの移住者が多くなっていたため祭りの存続にこだわる人が少なかったためコロナ流行時に中止となって以降今でも祭りは行われなくなっている。

【太鼓台】私の地元の愛媛県の東の地域では、秋祭りで五穀豊穡を願って太鼓台と呼ばれる神輿のようなものをかき、町を練り歩く。太鼓台は高さが大体5m、重さが2.5tくらいあり、地域によって上についているとんぼと呼ばれるものの色や太鼓台の様子は異なるが、だいたいどの地域でも太鼓台を高く上げる「差し上げ」や、複数の太鼓台が同時に練りあいを行う「かきくらべ」がおこなわれる。また住む地域によって色の異なる長襦袢(ながじばん)と呼ばれる服とハチマキを身に着けており、それでどの地域の人かを見分けていた。(私の地域では紫色だった)3日間ずっと「そーりゃそーりゃ」などの掛け声を言いながら太鼓台をかくため、祭りの次の日は声が枯れて辛かった。お盆、正月に帰ってこずとも、祭りのときだけは帰るといふ人も少なくないくらい地域にとって大事な祭りである。

【時代祭】私のお祭り体験は、今年の時代祭だ。京都出身の母親に勧められて申し込んだ時代祭のバイトで、装束を着て時代祭の行列を歩いた。自分自身、歴史にとっても疎く自分が何の役割なのかを全くわからずに3時間歩き続けたが、後から聞くには神幸列という時代祭の最も中心となる行列であり、主役の桓武天皇を守る役割であったらしい。せつかく京都の三大祭に参加するいい機会であったのに自分の役割をよくわからず歩き続けたのはちょっと惜しい気もするが、時代祭が今年も無事行われる手助けをできたと思うと、とても嬉しい。

【文化祭】中学3年のときに、文化祭のフィナーレ企画の準備・実行を担当した。コロナ禍でいろいろ制限があったので、文化祭の最後くらい皆の記憶に残るような盛り上がる時間にしたいと考え、先生や経験者の方に手筒花火を揚げてもらった。手筒花火は、中学校がある愛知県豊橋市の吉田神社が発祥といわれている。東三河の手筒花火は五穀豊穡、無病息災、家運隆盛、武運長久を祈る奉納行事としてお祭りで揚げられているもので、この地元の文化を大人になって地元を離れても懐かしく思い出せると良いな、という思いから企画をした。巨大な火柱が噴出した後、最後に「ハネ」と呼ばれる炎が大音響とともに足元に噴き出した時、大きな拍手とともに歓声上がり、達成感と感動を覚えた。

【!】私は10月13日に、安井金毘羅宮で行われた秋季金毘羅大祭の神幸渡御に参加した。私はタイミーさんとして参加して、行列の参加者はほとんどアルバイトのようだった。それっぽい服装に着替えさせられて、長い棒の真ん中に非常に重い太鼓を吊るしたものを持ちながら町内を練り歩いた。特に説明はなかったので、衣装や持ち物、何ならその行列自体が何なのかはよく分からないまま終わった。伝統の継承することは大切だが、このままだと海外の観光客向けの上っ面だけの空虚な伝統儀式になっていくのではないかと感じた。